



懇親会風景 大野正夫先生による乾杯のご発声（上）

われたことは、「藻類学会には若い人がじつにたくさんおられますね。私が属する小児科学会とは大違いで、本当にうらやましいです」。中堅・若手が着実に育ち、この日本藻類学会がますます発展していくことをそのときに確信しました。

今回は学会本部のある大学で本部業務と同時に大会を開催することとなり、また、いくつかの大学で卒業式の日と大会日程の一部が重なったことなど、準備や運営の面で多々至らないところがあったことをお詫び申し上げます。この高知大会を有意義なものにし、成功裡に終えることができたのは、参加者のみなさまをはじめ、各種イベントを企画された会員の方々および関係諸氏の多大なご協力のおかげであります。改めて深くお礼を申し上げます。

（高知大学）

## 日本藻類学会第41回大会エクスカージョンに参加して 星野雅和・長尾優作

### 採集会について

本エクスカージョンは、2017年3月26日に高知大学総合研究センター海洋生物研究教育施設にて開催されました。磯採集は午前中、井の尻漁港から船で10分ほどの白の鼻（藻類51, pp131-134, 2003年に紹介記事があります）で行われました。白の鼻は外洋に面しており、多少波がありましたが採集には差し支えありませんでした。磯にはヒジキ、カゴメノリを初めとした様々な海藻が生育しており、しばらく一心不乱に海藻採集が行われ、バケツ一杯になるまで採集した方も見受けられました。白の鼻での採集から戻る際、内湾の萩崎で、島袋寛盛さん、田中幸記さんが潜水にてホンダワラ類などを採集して下さりました。他の参加者は実習船からその採集風景を眺め、しばし歓談しました。

昼食休憩後、大野先生にもご参加頂き顕微鏡観察や同定、標本作成が行われました。顕微鏡を覗いたり、海藻の写真を撮ったりしながら議論を交わし、全体で緑藻3種：ポウアオノリ、ウスバアオノリ、*Ulva* sp., 褐藻17種：*Ralfsia* sp., ヘラヤハズ、ウミウチワ、シマオオギ、シワノカワ、フクロノリ、カゴメノリ、ハバノリ、カヤモノリ、ムチモ、ワカメ、カジメ、コブクロモク、ヒジキ、ヒイラギモク、トゲモク、ヤツマタモク、紅藻37種：マルバアマノリ、カモガシラノリ、ソデガラミ、ニセフサノリ、ガラガラ、ピリヒバ、サモアイシゴロモ、トゲイボ、ヒメモサズキ、クボミイシゴロモ、ミサキイシゴロモ、カサネイシモ、*Pneophyllum* sp.（本邦未報告）、ウミサビ、ヒメゴロモ、マクサ、オオブサ、オバクサ、フクロフノリ、マフノリ、コメノリ、タンバノリ、ムカデノリ、ヒラムカデ、*Grateloupia* sp., マタボウ、トサカマツ、スジムカデ、カギイバラノリ、トササイミ、オキツノリ、オオマタオキツノリ、ハリガネ、ベニスナゴ、ミゾオゴノリ、クロソヅ、*Laurencia* sp., 合計57種の海藻を同定しました。

### 採集会の感想

〈星野〉

私は自身の研究のためのカヤモノリ40個体を採集するという目標を立てて、今回のエクスカージョンに参加しました。白の鼻ではカヤモノリが数個体しか採集できないというアクシデントがあったものの、昼食休憩時に井の尻漁港で採集を続行したところ目標数のカヤモノリを採集することができ、本当にほっとしました。採集目標が達成できたこともうれしかったですが、先生方や学生の方と知り合うことができ、温泉に入ったり、おいしいごはんを食べたり、夜にはお酒を飲みながら研究のことや将来のことについてお話できたことが一番の収穫だったかなと思います。ただ一つ残念だったことは、磯採集の際にはカヤモノリしか眼中になく、実習室での同定・標本作成の際にはカヤモノリを塩蔵したり、培養チューブに移したり、シリカゲル乾燥標本にしたりを40回ほど繰り返していたために、高知に生えていた他の海藻についてほとんど記憶がないことでしょうか。最後に、この採集会の運営にご尽力いただいた高知大学の平岡雅規先生、田中幸記先生、高知大学海洋生物研究教育施設の皆様にこの場を借りてお礼申し上げます。

（北海道大学大学院理学院）

〈長尾〉

エクスカージョンに参加するのは初めての経験でしたが、今回の参加は非常に有意義なものとなりました。私は静岡以南の海で採集をしたことがなく、黒潮の影響の色濃い高知県で南方系の海藻が見られるのを楽しみにしていました。採集会では島袋さん、田中さんに寒空の下潜水して頂いたおかげ



同定会の様子

で私の願いも叶い、コブクロモクやソデガラミなどの見たことのない海藻を見ることができました。昼食後の同定会では、皆様の知識と情熱を目の当たりにして自分の不勉強さを痛感しました。研究対象の1種に注目するのではなく、広い視野を持って我々を取り巻く環境と真摯に向き合おうと堅く決心しました。今回の参加を通じて、道と同じくする同年代の学



参加者集合写真

生と知り合えたこと、彼らと語り合い自身の研究に対する姿勢を見つめ直せたことがなによりも嬉しいことでした。末筆ながら、エクスカージョンの企画・運営に尽力して下さった高知大学総合研究センター海洋生物研究教育施設、大会準備委員の皆様にご心よりお礼申し上げます。

(東京海洋大学大学院海洋科学技術研究科)

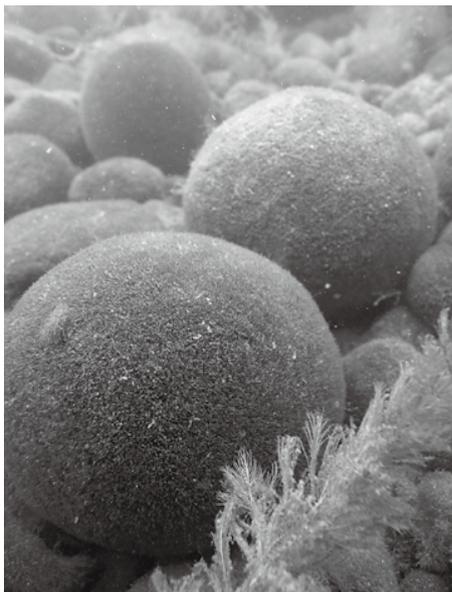
## 国立科学博物館企画展

### マリモの謎

—どこからきたのか？ なぜまるいのか？—

2017年8月22日(火)～10月9日(月、祝)

今年は、1897年(明治30年)8月23日に札幌農学校の学生だった川上瀧彌(1871—1915)が、阿寒湖で毬のように球状で美しい藻を発見して120年目にあたります。翌年、川上は『植物学雑誌』にこの藻を報告し、新称「まりも」を発表しました。以来120年間、この奇藻がどこからきたのか、そしてなぜ丸くなるのか、数多くの藻類学者がその謎に挑戦してきました。そして、それはマリモと阿寒湖の環境保全の歴史でもあります。



この記念の年、上野の国立科学博物館では、釧路市教育委員会マリモ研究室(室長:若菜勇)の協力を得て、国の天然記念物そして環境省指定絶滅危惧種でもあるマリモを生きたまま展示する企画展を開催することにいたしました。この企画展では、マリモの起源と球化現象についてこれまでに明らかにされた研究成果を紹介するとともに、生物多様性保全の実戦地である阿寒湖で行われている、マリモ群落を保全する試みの一端を体験していただく予定です。

なお、本企画展は入館料のみでご覧いただけます。阿寒湖からの緑の使者マリモにぜひ会いに来てください。(北山太樹)

#### 【国立科学博物館】

開館時間：午前9時～午後5時(金・土曜日は午後8時まで)

入館は各閉館時刻の30分前まで。

休館日：毎週月曜日(月曜日が祝休日の場合は翌火曜日)。

入館料：一般・大学生は620円(団体310円)。

高校生以下および65歳以上は無料。

所在地：東京都台東区上野公園7-20

交通：JR山の手線 上野駅公園口から徒歩5分。

問合せ：Tel 03-5777-8600 (ハローダイヤル)

URL：<http://www.kahaku.go.jp/>

藻の見遊山